

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: R3年 3月13日

事業所名 グローアップ (単位1) (1階ルーム)

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			●体を動かすスペース、1人遊びなどのスペースを作れるよう工夫を継続して行う	ご利用者がアクティブに遊びたい時は戸外に出たり、静かに過ごされたい時は環境を整えたりと、工夫していきます。
	2	職員の配置数は適切である	5				現在、法令の基準を大幅に超えた職員を配置しています。その強みを活かした支援を工夫します。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1		●段差がある	可能な限りバリアフリー化に努めていますが、バリアフリー化が難しい時はマンパワー等で補っていきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5				毎日の日課の振り返り、全体、単位ごとのミーティングも継続し、職員間の共通理解を深め、業務改善に取り組みます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5				前回のアンケート結果を受け、職員紹介や、業務改善に努めています。また、日ごろから保護者様と連携を図り、職員間でも認識の違い内容、周知の徹底に努めます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5				保護者様へのアンケート結果を踏まえ、自己評価表を作成し、ホームページに公開しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1			第三者の外部評価はしていませんが、の保護者からの評価を踏まえ、職員紹介や業務改善を実施しています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5				今年度はコロナウイルス感染症の影響で、研修の機会がへりました。が、オンライン研修を利用することができたので、今後も可能な方法で研修の機会を確保します。

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			●定期的に話し合いを行っている(行っている支援の振り返り見直しなど)	ご利用者様と保護者様の情報を職員で共有し、それを基に適切にアセスメントし、児童発達支援計画を作成します。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5				ガイドラインを基にした、アセスメントツールを使用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		●全体で行う日課も個々の支援目標を意識して、それぞれが行えるような工夫をしているが今後も継続して行っていく	様々な日課を通して療育ができるよう職員皆で検討し、ご利用者様の意見も取り入れながら立案を継続します。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			●毎月のプログラムを変えたり季節の行事も入れている	ご利用者様の特性をベースに主体的に、楽しく取り組めるような日課の作成を継続します。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5				休日や長期休暇は戸外活動を中心に、普段ではできない体験ができるよう日課の作成を継続します。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5				日課活動では集団活動が中心になり、余暇時間には個々のご利用者様に合わせて、個別活動を実施しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			●支援内容、日課の目標等職員間で話し合っています	これまで以上に職員間の連携が図れるよう、その日の担当が朝の会で一日の流れや日課の進め方を説明し確認します。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		1	●翌朝行っている。個々の振り返りだけで終わらず	ご利用者様の人数によって、その日で振り返りの時間を作ることが困難です。今後、ミーティングや朝の会の後に、前日の日課の振り返りの時間を作れるよう努めます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5				日々の支援記録を基に支援の検証を継続します。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5				モニタリングにより支援の達成度、ニーズの把握に努めます。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5				基本活動を踏まえながら、ご利用者様が楽しんで日課に参加できるよう工夫します。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			●管理者が参加しています	担当者会議に出席し、情報の共有が図れるよう、体制を維持します。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5				連絡会に参加できる体制を維持し、学校へのお迎えの際は、情報交換を継続します。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/	/			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5					その都度、担当者会議や連絡会に参加できる体制を維持します。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	/	/	/			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1				コロナウイルスの為、他機関への研修の参加が制限されました。担当者会議に専門職が参加するときは、助言を参加に支援をしています。今後も継続します。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5					地域の児童館や公園等を積極的に活用する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2			●コロナ禍で最近は行けていないが、かざるまの会に参加している	2カ月に1回の研修やイベントに参加できる体制を維持します。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5					連絡帳や送迎の際に支援内容やご利用者の様子が伝えられる体制を維持します。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	2				トークンや絵カードなど個々に合った、支援方法を具体的にお伝えしています。研修、講習があれば、保護者にもお伝えできるようにします。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5					契約の際には読み合わせを継続します。	

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		●悩みを聞き、上司に一度相談して保護者にも伝えたり助言するようにしている	保護者様からの相談については、職員全体で話し合いながら適切に対応できるよう、体制を継続します。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		各保護者によってニーズに違いがあるので、どういった目的で開催できるかを検討します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			契約の際に苦情の窓口を説明しています。また、苦情がある場合はすぐに管理者に報告し、対応しています。今後も体制を維持し、適切な対応に努めます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			ホームページで日課表、活動概要を掲載しています。今後は掲載を増やせるように努めます。
	35	個人情報に十分注意している	5			ホームページでの活動の記録は利用者様の顔を隠し、書類などは鍵付きの書庫で保管しています。その都度、研修を実施しています。今後も継続していきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			絵、写真カードやマカトンサイン、文字盤などを継続し、意思の疎通を図っていきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2		事業所の前に季節に合わせた飾りつけを行ったり、夜間は地域の方がウオーキングしやすいよう外灯をつけています。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5			●すべて把握できていないためもう一度目を通したい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			

非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5				職員を虐待の外部研修に積極的に派遣し、内部では学んだことについての、研修報告を行っています。今後も継続します。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5				身体拘束について事業所全体で理解を深め、必要であれば、放課後等デイサービス計画書に記載を継続します。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5				契約の際に保護者から聞き取りを行い、アレルギーのある子は定期的に把握・確認を継続します。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1		●最近出せていないため意識して行っていく	緊急性がある場合は迅速に対応しています。今後もヒヤリハット事例を活用しながら安全対策を継続します。